



CODE
Letter

2008.7.14 VOL36

(特活)CODE海外災害援助市民センター発行
〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL:078-578-7744 FAX:078-574-0702
e-mail: info@code-jp.org URL http://www.code-jp.org/
郵便振替:00930-0-330579

今号の内容

- ・ 2008年度総会報告
- ・ 2007年度の主な事業報告
- ・ 2008年度の主な事業計画

2008年度総会報告

6月17日(土)、三宮のサロン・ド・あいりにて2008年度総会が開催されました。正会員14名、オブザーバー7名の合計21名が出席しました。2003年12月に特定非営利活動法人(NPO法人)の認証後、5回目の総会となります。議案である2007年度の事業報告・決算、2008年度事業計画・予算について審議が行われ、すべて承認されました。

2008年度の主な事業予定をご紹介します。主な災害救援活動として、アフガニスタン支援、ジャワ島中部地震の支援、バングラデシュ支援など継続支援中の救援プロジェクトは引き続き取り組んでいきます。(各事業の詳細については今後のCODEレターで報告していきます)

昨年度に引き続きJICAの草の根技術協力事業(地域提案型)として、アフガニスタンのぶどう農家の方々を研修生として招き、日本の農業、加工技術を学んでもらう研修プログラムに参加してもらいます。また支援が必要とされると判断される災害が発生した場合、随時救援活動を立ち上げていきます。今年に入り発生した2つの大きな災害、中国四川省地震、ミャンマー・サイクロンの救援活動は現在進行中であり、既に支援活動報告会を行っていますが、これからも活発に行われていくでしょう。

また、これまで行ってきたセミナー・勉強会などを"CODE寺子屋"として位置づけ、幅広い分野の講師を招き継続的に行っていきます。神戸市内にある国際機関を訪問する『HAT神戸内国際機関訪問ツアー』、ボランティア文化の普及や市民参加の場を提供するボランティアの日など、CODEがモットーとしている「普通の市民が気軽に関わるNGO」として参加、学習、交流の機会を提供していきます。

災害関連情報の収集及び発信事業としての災害情報サイト(CODE World Voice)は、翻訳ボランティアの積極的な参加をいただき、メーリングリストの場による活発なやり取りから、普段あまり知る機会の少ない被災地の生活や文化などの情報発信を行っています。本年度もより多くの市民の参加を呼びかけていきます。

最後に、今後ともみなさまからのご支援、ご協力のほど宜しくお願い致します。(総会報告についての詳細が御必要の方は事務局までご連絡ください。)

< 2008年度運営体制 >

- 代表理事：芹田 健太郎 神戸大学名誉教授/愛知学院大学教授
副代表理事：室崎 益輝 関西学院大学総合政策学部教授
災害復興制度研究所所長
- 副代表理事：水野 雄二 (財)神戸YMCA総主事
- 理事：黒田 裕子 支援プログラム部会長/阪神高齢者支援ネットワーク理事長
理事：島田 誠 アートサポートセンター神戸代表
理事：西 正興 (株)神戸スイスポーツ相談役
理事：野崎 隆一 ガイドライン部会長/神戸まちづくり研究所事務局長
理事：秦 正雄 市民参画部会長/コープこうべ常務理事
理事：榛木 恵子 人材育成部会長/関西NGO協議会事務局長
理事：藤野 達也 (財)PHD協会総主事代行
理事：松本 誠 市民まちづくり研究所所長
理事：村上 忠孝 財務部会長・村上環境住宅研究所所長
理事：吉富 志津代 多言語センターFACIL代表
監事：中川 和之 時事防災リスクマネジメントWeb編集長
監事：飛田 雄一 (財)神戸学生青年センター館長
理事兼事務局長：村井 雅清 被災地NGO協働センター代表

本年度もよろしくお願い致します。

2007年度の主な事業報告

(2007年度総会資料から抜粋、要約)

災害救援プロジェクト

アフガニスタン救援プロジェクト

【2002年7月17日からの継続事業】

2003年からスタートしたぶどうプロジェクトは5年が経過しました。人々は農業を主として日々の生活を動んでいます。治安状況は決して安心と安全が保障されているわけではなく、余談を許さない情勢でもあります。5年目の成果としては、昨年度行われたJICA地域提案型事業によるアフガニスタン農業研修を受けて、現地で彼らによって行われているワークショップが展開していることが挙げられ、2年目となる今年度の研修後も地元での成果が期待されます。

ぶどう基金はこれまでの報告により、貸し付け開始から3年間で合計412世帯のぶどう農家がぶどう基金をもとにぶどう畑を再生していることとなります。

イラン南東部地震救援プロジェクト

【2003年12月26日からの継続事業】

CODEが支援してきたコミュニティセンター(AHKKセンター)は事実上地元の女性たちの運営管理で、これまで通り同センターを活用して子どもたちの歌や人形劇の練習場であったり、女性たちが集い悩みををうち明けたり、情報交換の場として使われてきました。被災地バムに入っているNGOによると、現在も順調に運営されているとのことでした。

ジャワ島中部地震救援プロジェクト

【2006年5月27日からの継続事業】

既に終了した住宅再建プロジェクトを指導されたエコ・プラワットさんから2007年度後半に提案があった「ウォータープロジェクト」(2008年度事業計画で後述)は理事会で審議、決定され、必要な支援金は現地に送金し、いよいよ本格的に同プロジェクトを着手することになっています。

ペルー地震救援

【2007年8月20日から2008年3月31日】

2007年8月15日(現地時間)ペルー南部を中心に発生したマグニチュード7.9地震に対して、吉富理事が所属する「FMわいわい」に在日ペルー人の方がおられ、発生直後から母国との連絡、支援を行われていたことから、CODEに集まった募金を託すこととし、本救援プロジェクトは終了となりました。具体的には同団体が委託する「ICA文化事業協会」が行う被災地100ヶ所程度の炊き出し所の支援に使われます。詳細に

ついてはFMわいわいのHP(下記アドレス)をご覧ください。 <http://www.tcc117.org/fmyy/>

バングラデシュサイクロン"シドル"救援

【2007年11月20日から】

2007年11月15日にバングラデシュで発生したサイクロン"シドル"に対して、CODEが連携する「TELLNet」やこれまでに交流を持つバングラデシュ防災センター所長サイデュール・ラーマンさんに連絡しながら被害情報の収集を始めました。その後、元CODEスタッフの斉藤容子研究員も現地に向かうことがわかり、情報収集を依頼しました。

ネットワーク作りに関する活動

昨年2007年度より始まった神戸学院大学社会貢献・防災ユニットへの講師派遣は、CODEとのコラボレーション事業という位置づけで行っており、村井理事は同大学の客員教授でもあります。この事業により同ユニットからCODEの各種ボランティア活動に学生が参加してくれており、今後も学びと参加の場として大切にしていきます

2007年6月12日、生活協同組合コープこうべ第87期通常総会にCODEとして初めての出席となりました。

2008年1月13日、日本災害復興学会が発足し、CODE室崎副代表理事が初代会長に就任しました。

2007年1月16日～2月18日、兵庫県海外研究ネットワーク事業として、神戸学院大学とインドネシア・ジョグジャカルタにあるデュタ・ワカナ・キリスト教大学との間で研究員派遣が実施されました。研究員はCODEのジャワ島中部地震プロジェクトのカウンターパートナー、エコ・プラワットさんだったので、CODEとの交流が実現し、相互にたいへん大きな学びがありました。

2008年3月29日、CODE支援のチャリティコンサート"KOBE DEEP BLUE HEARTS"が開催されました。「音楽シーンの中でも『支え合う力』『命の大切さ』を伝えていけるイベントにしたい」という思いから立ち上げられたイベントで、第2回目も予定されているそうです。会場ではCODEのあらましと活動を紹介したDVDを流し、関連グッズの販売を行いました。イベント開催後、57,098円をウォータープロジェクト(呼び水プロジェクト)の水道管設置事業のために寄付していただきました。

2008年度の主な事業計画

(2007年度総会資料から抜粋、要約)

呼び水プロジェクトー復興への移行支援ーインドネシア・ジャワ島中部

【2008年4月1日から】

ジャワ島中部の中心都市であるジョグジャカルタ市から36キロメートル離れたGiri Sakar(ギリサカリ)村は被災前から水不足に悩まされてきました。CODEは2008年3月からパイプラインの枝管敷設を村の人々がゴトンヨロン(相互扶助)によって行い管理していくことを支援し、パイプラインは4月に完成しました。現在村の人々は清潔な水を村の貯水タンクから利用しています。さらに同様の問題を抱える周辺地域の問題解決へとつながるような動きも見えており期待されるところです。

一方で現地では、持続的な水環境を確保する自然体型の構築にチャレンジするために、パーマカルチャー(パーマネント+アグリカルチャー、農業を基盤とした持続的な環境デザイン)の勉強会が始まりました。コミュニティの「復興バネ」として、Giri Sakar村へのこのプロジェクトを「呼び水」に地域での持続可能なライフスタイルにつなげていくことを目指し引き続きプロジェクトを進めていきます。

ミャンマー(ビルマ)サイクロン「ナルギス」救援プロジェクト

【2008年5月7日から】

現地時間5月2日から3日にかけてミャンマー(ビルマ)を襲った大型サイクロンは、中南部を直撃し、報道によりますと、最大の被災地はイラワジ川河口のデルタ地帯で河口付近の村々が壊滅状態になったようです。最大都市ヤンゴンも多大な被害がありました。被災地の現状は支援団体の援助、現地支援団体や被災者同士の助け合いはあるものの、緊急医療、二次医療、緊急物資配布などあらゆる面で十分な支援が行われていない状況です。最も懸念されるのは健康上の問題です。この緊急課題に対応できるのは専門の医療従事者でしかありません。CODEは主に災害における復興段階を支援していますが、この緊急を要する事態を鑑み、このHuMAの援助活動への支援していきます。



ミャンマー(ビルマ)は軍事政権下であり、援助を申し入れた国々の支援要員受け入れを拒否していましたが、国連との交渉により受け入れ拡大を表明しましたが、実際には受け入れを制限していることも伝えら

れています。

そのような中、CODEの正会員であり、NPO法人災害人

道援助医療支援会(HuMA)理事長で医師である鶴飼卓先生

が21日から被災地域に入り、約一週間これからの派遣につなげるための現地調査をしてこられました。



現在HuMAは現地の関係者と連携しながらの直接の医療支援、物資供与、公衆衛生的調査・介入、災害医療教育などの支援を検討中です。詳細はHuMAのHP(下記アドレス)をご覧ください。

<http://www.huma.or.jp/activity/myanmar.html>

またミャンマー・サイクロン救援ニュースにおいてCODE翻訳ボランティアによる様々な国際機関やNGOの支援レポートなどを発信していきます。

中国・四川省大地震救援プロジェクト

【2008年5月13日から】

日本時間2008年5月12日午後3時28分に中国四川省においてM8.0の地震発生しました。国営新華社通信によると、この大地震により6月30日までに、四川、甘肅、陝西、雲南、湖北、河南、湖南各省と重慶市他、死者は総数6万9195人、負傷者は37万4177人、行方不明者は1万8403人となりました。



CODEはこの被害状況を鑑み救援活動を行うことを決定しました。地震発生当時、中国雲南省に滞在中であったCODEの元臨時スタッフの吉椿雅道さんが現地に入り調査を行っています。CODE事務局では彼の現地レポートを各方面に発信していくのと同時にその情報をもとに今後CODEが行う復興支援を策定していきます。吉椿さんは6月13日に一時帰国し各地で報告会などを精力的に行い、30日に被災地へ向かいました。中国四川大地震救援ニュースにおいて彼の調査レポートやCODE翻訳ボランティアによる中国からの関連報道などを発信していきます。



JICA草の根技術協力事業(地域提案型)

【2007年7月12日からの継続事業】

7月10日から約1週間行われる今回で2年目となる研修では、第一日目の7月11日にJICA兵庫センターにおいてオ

リエンテーションを行った後、甲府に移動し、二日目の11日に柏尾山大善寺(ぶどう寺)などの施設見学を行い、三日目の12日から昨年度刺激的な出会いとなった澤登早苗先生の農園「フルーツグローアー澤登」で農業実習を行います。

四日目の13日には、早苗先生と彼女の父親であり、アフガニスタンに調査に行ったこともあるぶどう研究者のお兄さんの遺志を継ぎ、日本で最初のぶどう



石積み作業を行う研修生(昨年度)

の有機栽培を始めた澤登芳先生の講義を受けます。八日目の16日には昨年度に引き続き兵庫県佐用町において、棚田を作るために必要な石積み作りを体験実習を行います。昨年の研修後、帰国した研修生が地元で研修の成果をシェアするためのワークショップが行われました。今年度の研修の成果が広くアフガニスタンの農業再生に活かされることが期待されます。

活動記録 4/21～7/10

- 4月22日 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(村井理事)
<5月2～3日 ミャンマーをサイクロン「ナルギス」が襲う>
- 5月10日 関西NGO協議会総会
<5月12日 中国・四川省大地震が発生>
- 5月13日 神戸学院大学 防災・社会貢献ユニットで講義
(鈴木隆太さん・村井理事)
- 5月17日 CODE理事会
- 5月20日 神戸学院大学 防災・社会貢献ユニットで講義
(牧秀一さん・村井理事)
- 5月21日 神戸女子大学で講義(村井理事)
- 5月22日 ぼたんの会夜会
- 5月24日 世界語り継ぎ研究会に参加(細川)
- 5月27日 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(藤野理事)
- 6月3日 神戸学院大学 防災・社会貢献ユニットで講義
(織田峰彦さん・村井理事)
- 6月10日 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(村井理事)
- 6月11日 佐用町にてアフガニスタン農業研修打ち合わせ
- 6月15日 CODE総会、CODEの夕べ
- 6月16日 中国四川省大地震・現地報告会(於・名古屋、吉椿)
- 6月17日 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(村井理事)
「四川大地震の現場から」(於・神戸学院大学、吉椿)
- 6月19日 コープこうべハート基金運営委員会で四川報告(吉椿)
- 6月20日 防災士研修で講義(京都、村井理事)
FMわいわいフォーラム「大震災を語り継ぐ」で四川・ミャンマー支援のアピール(吉椿)
- 6月24日 神戸学院大学 防災・社会貢献ユニットで講義
(斉藤容子さん・村井理事)

- 6月26日 「災害復興ガイド」編集会議
- 6月27日 チーム中越報告会で四川報告(吉椿、村井理事)
- 6月28日 神戸大学RCUSSオープンゼミナールで四川報告(吉椿)
- 7月1日 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(村井理事)
- 7月4日 防災士研修で講義(福井、村井理事)
- 7月8日 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(村井理事)
- 7月9日～19日 アフガニスタン農業研修
(於・山梨、佐用、村井理事、尾澤)

ありがとうございます 4/21～7/10

会員・寄付者ご芳名(以下順不同・敬称略)

一般寄付

個人:中西玲子、小松雅一、武内句子、雪岡恵津子、成毛典子、井上由紀子、鶴飼愛子、笠置りか、高橋澄枝、岡本明子、石川玲子、岩間節子、小林拓也、安部美鈴、勝部重一郎、住野和子、武内句子、志岐良子、川鍋彰男、西田照代、池島佳子、三島宏夫、菊田歌雄、田坂美代子、古川英子、上田耕蔵、柳田邦男、岸田三枝子、島本久嗣、亘佐和子、谷洋一

会員

・正会員

個人:浅野壽夫、村上忠孝、中川和之、飛田雄一、鶴飼卓、室崎益輝、芹田健太郎、西正興、野崎隆一、橋口文博、牧田稔、明石和成、大谷成章、草地とし子、青田良介

・団体:神戸YMCA

・賛助会員

個人:後藤堅固、黒瀬晴世、高橋智子、菊田歌雄、吉田あち、久永亨、井上由紀子、林大造、山田一成、阿南健太郎、不破雅実、中村安秀、上田耕蔵、岩崎信彦、鶴飼愛子、宇田みどり、岡本牧子、片岡幸彦、梁勝則、平林典子、和田龍太郎、鈴木嶺、藤原ミサ子、北茂紀、斉藤容子、成毛典子、細谷祐司、宇田川規夫、藪口隆、阪田朋子

おわりに

みなさま、これから暑い夏が続きますのでお体にはお気を付けてください。今年起きたミャンマー、中国の災害救援では多くのボランティアの方々に参加していただき、精力的に活動していただいています。特に四川の地震をテレビで見て何のつてもなく現地に飛び込んだ若者に敬服します。。。(S.F.)

